

APEX News No.11

トコジラミ

最近、日本ではトコジラミの発生が増えています。一般には、ホテルなどの宿泊施設が大半ですが、一般の住宅やマンションなどからも、駆除の依頼が増加しています。

昔から日本国内にも生息しており、明治時代は、軍の基地（鎮台）でよく発生していたため、鎮台虫と呼ばれていました。しかし近年、グローバル化に伴い外国との往来が活発になると、旅行者が持ち込んだと思われることもあり、ホテルなどでの被害が増えています。

特に、2020年は東京オリンピック、2025年には大阪万博が開催されることにより、被害の増加が懸念されます。



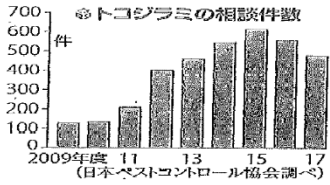
トコジラミは「シラミ」と名前につきますが、実際はカメムシの仲間で、カメムシ同様悪臭を放ちます。普段は壁やベッドの隙間などに潜っていますが、人が寝静まった後に這い出し、露出した肌から吸血します。

トコジラミは非常に臆病で、吸血中に寝返りを打つと、一度針を抜き、再び吸血します。そのため、トコジラミに刺された痕は、2箇所や3箇所になることが多くあります。一般にダニに指されると刺され口が2箇所といわれますが、実はそれは間違いで、恐らくこのトコジラミの話が誤って伝わったためと思われます。

トコジラミは、放っておくと、あっというまに繁殖して深刻な被害をもたらします。繁殖してしまうと、個人で駆除することは非常に困難です。就寝中に刺されて、かゆみがひどく、刺された痕が残っている場合等は、すぐに害虫駆除業者へ連絡して、調査及び駆除されることをお勧めいたします。

トコジラミ 被害再び増

一時国内のみならず、トコジラミ(トコジラミ)の被害がじわじわ広がっている。置の隙間などに潜み、刺されるゆゆゆを引き起こす。一度繁殖すると駆除が難しいため、外部から持ち込まないよう注意を呼びたい。(斎藤保)



狭い場所に潜伏 人やペットの血吸う



トコジラミの雄(左)と雌。トコジラミは5〜8ミリで、吸血する体長は丸く膨らむ(日本ペストコントロール協会提供)

40代女性は昨年、九州に旅行した際にトコジラミに刺されたという。宿泊しなかった治療を払ってほしいと相談してきた。 害虫駆除会社が加盟する日本ペストコントロール協会(東京)によれば、こうした相談は2000年代に入ってから増えているという。09年度に全国から寄せられた相談は1300件だったが、15年度には617件に急増し、その後も高止まりしている。 東京都横浜市等の自治体も、パンフレットを作成するなどして注意を促している。都庁によれば、トコジラミの成虫は体長5〜8ミリで、羽はなく、平らな体つきをしている。昼間はマットレスや家具の隙間、畳の裏側などの狭く暗い場所に潜伏。夜

繁殖すると駆除困難 ▶▶ 外部から持ち込まない

増やさないためには、外から持ち込まず、早期発見する

間活動し、人やペットの肌から血を吸って丸く膨らみ、黒いフンをする。駆除が難しい。 繁殖し、移動・拡散する。 駆除後にもない頃までは国内に広くまん延していたが、衛生環境が整い、駆除が普及した1964年の東京オリンピックの頃には減少し、70年代にはほとんどなくなった。しかし、海外で殺菌剤と耐性を持った種類が登場。同協会技術委員の元木さんは「海外からの旅行者の荷物や衣服などに潜んだトコジラミやその卵が、国内に持ち込まれた」とみられると指摘する。 トコジラミは一度刺された程度ではかゆみなどの症状は出にくく、繰り返し刺されることでアレルギー反応として発症する。このため存在に気づくのが遅れやすい。また一般的に殺菌剤に対し耐性を持ち、様々な隙間に潜んでいるため、駆除が難しいといった特徴がある。繁殖力が強く、吸血しなくても1年ほど生きられるものもあるという。

ことが重要となる。成虫は肉眼でも発見できる大きさで、牛乳パックの隙間や、畳の裏側に潜り、黒いフンを排泄する。駆除が難しい。 繁殖し、移動・拡散する。 駆除後にもない頃までは国内に広くまん延していたが、衛生環境が整い、駆除が普及した1964年の東京オリンピックの頃には減少し、70年代にはほとんどなくなった。しかし、海外で殺菌剤と耐性を持った種類が登場。同協会技術委員の元木さんは「海外からの旅行者の荷物や衣服などに潜んだトコジラミやその卵が、国内に持ち込まれた」とみられると指摘する。 トコジラミは一度刺された程度ではかゆみなどの症状は出にくく、繰り返し刺されることでアレルギー反応として発症する。このため存在に気づくのが遅れやすい。また一般的に殺菌剤に対し耐性を持ち、様々な隙間に潜んでいるため、駆除が難しいといった特徴がある。繁殖力が強く、吸血しなくても1年ほど生きられるものもあるという。